

仕合わせの和

第172号

H. 28. 7. 1

(毎月1日発行)

「ザル法」と言われる

政治資金規正法

住職 谷川寛俊

クリーンなイメージが強かった東京都知事の舛添要一氏が辞職したことは周知の通りです。連日マスコミが取り上げ就任した頃の期待感が強かっただけに、とても残念でなりません。次々に浮上した疑惑について、記者会見や議会で釈明を繰り返していたが、その際の対応のまずさが事態を悪化させたとの見方があり、危機管理の専門家は「話す内容だけでなく、自分自身に対する市民視線が欠けていたのではないか」と分析している。

高額な海外出張費と公用車での別荘通いが4月に問題となった際、舛添氏は「条例やルールに基づいてやっている」と、終始強気だった。ある弁護士はこの時期に知事が自らを「トップリーダー」・「24時間365日働いている」などと表現した発言

に注目。「都民はあれでは偉そうだと思いい、反感を抱いたのでは…」と分析していたようです。その後、説明が後手後手に回り、家族旅行のホテル代を政治資金で支払った問題が5月に明らかになり、次から次へと疑惑が出てきたのでした。

都知事にとって都民がどう思っているのかを忠告するブレインが居なかったのか。更に弁護士2人による政治資金の使途に関する調査報告書を依頼した時、公私混同で不適切だけれど、違法性がないという説明でしたが、あの時に弁護士から舛添氏に対して一喝でもしていれば、ここまで事態にはならなかったかともという話もあったようです。

終わった人間の話をしてもしょうがないとは言え、「明日は我が身」と言われる様に、反面教師にして、我が身を振り返る機会にしたいと思います。

舛添氏と言えば、東京大学法学部で成績が1番か2番だったという頭脳明晰で、それこそトップリーダーの名を欲しいままにしています。これほど有能な逸材でありながら、自ら蒔いた

「仕合わせの和」と打ち込んで頂ければ、ホームページにつながります。

編集・発行 玉蓮山 真成 寺
編集部 谷川久仁子
TEL・FAX 0765-22-2268
携帯 080-3744-2523
こちらの番号でもお寺につながります。

種を全国民から非難され、都知事を去るという結末を迎えてしまいました。東京都民のみならず、日本にとって本当に残念極まりありません。

現行の法律上、「政治資金規正法」には使い道を制限する規定が無いそうでは、使っても分かる通り、野菜などを洗う時に使う「ザル」のように漏れが多いので、俗に「ザル法」と呼ばれ、一刻も早い改正が求められているようです。

そして説明責任のないまま、この問題はあやふやになるかもしれません。

だとすれば、いつも言われているように、政治家自身の襟をもっとシッカリ締め直して頂くと共に、我々国民も今日の政治を身近にとらえ、一緒に考え悩み見守っていかねければならないと思います。

いずれにしても、日本を代表する都知事であり、特に4年後に開催される東京五輪に悪影響が出ないことを祈る

ばかりです。

かつて750年前、あの荒れ狂う鎌倉の世にあって、時の執権・北条時頼（現在の内閣総理大臣に当たる人）に、政治の腐敗が原因で人心が乱れ多くの宗教が蔓延（はびこり）、いったい何を信じて良いのか分からなくなってしまうという、まさに今日の世相に似た現状を憂い、あの有名な『立正安国論』を日蓮聖人が幕府に献上されたのであった。つまり正しい法を立てて国を安泰にするというお釈迦様の真意である法華経・お題目の教えでなければならぬと訴え、1人で立ち上がられたのです。しかしそれが原因で、大難は四ヶ度、小難は数知れずという壮絶なご一生を余儀なくされたのでありました。そんな日蓮聖人は常々申しておられました「人間の一生は、その人の振る舞いによる」との金言を、今こそ噛み締めたと思います。

